

様式第4号その①（第6条関係）

令和 8 年 4 月 6 日

宗像市長 伊豆 美沙子 様
（宗像市議会議長経由）

議員名 伊達 正信

政務活動費収支報告書

宗像市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項の規定により、別紙
のとおり令和7年度政務活動費収支報告書を提出します。

和

年度政務活動費収支報告書

議員名

伊達正信

1 収入

政務活動費 264,000 円

2 支出

(単位：円)

項目	領収書額	政務活動費報告額
研修開催費	0	0
調査研究費	0	0
資料作成及び資料購入費	0	0
広報及び広聴費	366,850	264,000
人件費	0	0
事務所費	0	0
合計	366,850	264,000

3 残額

0 円

4 添付書類

領収書等証拠書類

(様式1)
令和7年度 政務活動費明細書

			費目												(単位:円)	
No	内容	項目	旅費	講師 謝金	出席 負担金	印刷 製本費	図書 購入費	備品 購入費	消耗 品費	使用料	郵送料	手数料	賃金	その他	領収書額	政務活動費 報告額
1	3月議会報告書印刷代	広報及び広聴費				80,300									80,300	64,240
2	9月議会報告書印刷代	広報及び広聴費				80,300									80,300	64,240
3	12月議会報告書印刷代	広報及び広聴費				206,250									206,250	135,520
4	視察旅費															
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
合 計						366,850									366,850	264,000

研修開催費		
調査研究費		
資料作成・資料購入費		
広報及び広聴費	366,850	264,000
人件費		
事務所費		
合 計	366,850	264,000

領 収 証

伊達 正信 様

¥ 80,300 -

但し 代て正信信通他印刷代

上記金額正に領収致しました

令和 7 年 5 月 9 日

内 訳	
税率10%対象	
税 抜 金 額	73,000 円
消 費 税 額	7,300 円
内消費税額	円

福岡県宗像市

TEL (094
FAX (094
登録番号 T6



領 収 証

伊達 正信 様

¥ 80,300 -

但し 代て正信信通他印刷代

上記金額正に領収致しました

令和 7 年 10 月 15 日

内 訳	
税率10%対象	
税 抜 金 額	73,000 円
消 費 税 額	7,300 円
内消費税額	円

福岡県宗像市

TEL (094
FAX (094
登録番号 T6



取扱者印

証 收 領

伊達正信 様

2 206,250-

但し 正信通信他印刷代

上記金額正に領収致しました

令和 8 年 2 月 6 日

内	訳
税率10%対象	
税 抜 金 額	187,500 円
消 費 税 額	18,750 円
内消費税額	円

福岡県宗像市田原



TEL (0940)

FAX (0940)

登録番号 T681



取扱者印

質問 糸島市では、地場産業に特化した「糸島市中小企業基本計画」を策定し、市経済の健全な発展や市民生活の向上を図ろうとしている。本市でも、その前段となる「中小企業基本条例」を先ずは制定していただけないか。

部長回答 商工会事務局と今まで以上に連携、議論の機会を設け、条例制定も含めて検討してまいりたい。

◎宗像市は、「産業振興計画」というのを策定していますが、これは、水産業や農業の事、そして商工業や観光業等すべてを含めた振興計画となっており、基本的なことやデータの記載にとどまっていると感じます。糸島市の「糸島市中小企業基本計画」の前段となる「糸島市中小企業振興基本条例」には、第1条に「この条例は、中小企業が本市の経済及び、まちづくりにおいて重要な役割を果たしていることに鑑み、中小企業の振興について基本理念を定め、市の責務、中小企業者が務めるべき事項等を明らかにするとともに（中略）もって本市経済の健全な発展及び市民生活の向上を図ることを目的とする」とあります。

また、私の感じる所ではありますが、本市の少し弱い所である分についても「中小企業間及び産業間の連携による経済循環に関する施策」というのも謳っています。それから、第4条2項には、「市は、中小企業の振興に関する施策の実施に必要な財務上の措置を講じるよう努めるものとする。」として、明確に市の責務を明らかにしています。お隣の福津市でも同様のものを策定しています。

まさのぶ さんぽみち 正信の散歩路

昨年10月に宗像市議会議員選挙が実施されましたが、衆議院選挙と同時期での選挙となり、保守系の候補者には大変厳しい風が吹いた結果となりました。

私自身は前回より214票も多い1,778票を頂き、4期目の当選を果たすことができました。公選法によりますと、お礼は書けないことになっています。もどかしさを感じるところです。

今回で最年長議員となりましたので、少しでも新人議員の皆さんをはじめ、多方面に良きアドバイスのできる議員を目指したいと思います。

春は、別れの季節でもあります。6年間赤間小学校の信号機の所で朝の交通誘導の中で知り合った子どもたちともお別れです。城山中学校の卒業式では、私の息子がPTA会長を務めていますので、来賓あいさつとなりました。いいことを言うな～と親ばかりでした。また、入学式では孫が入学しますので、三世代揃っての式典参加となります。楽しみです。

不登校の子どもたちが小学生も含め、多くなっています。私も会員である「朝起き会」という会がありますが、3月11日にマリンメッセで九州地区大会（一部地域除く）がありました。その中の演談で体験談を話されたお母さんの話を少し紹介します。お子さん（男児）が小学1年生になってから不登校となったそうです。お母さんは学校に行きなさいとかは言わず、親しかったお友達を家に呼んで遊ばせたそうです。そうしたら、お子さん自身から学校へ行ってみようかなという言葉があったそうです。まだ週1回程度ですが、学校へ行きだしたそうです。市では、吉武地区の「正助ふるさと村」の所に「子どもの自立センターホープ」という施設を設置し、学校に行けない子どもたちの心の癒しの場として支援しています。市が運営する子どもたちのもやいの場として他の自治体からの問い合わせも多いようです。

心豊かに生きるまち、宗像の創造

まさのぶ つうしん だて正信通信

令和7年4月 vol.46

編集・発行

だて まさのぶ
宗像市議会議員 伊達 正信

〒811-4147

宗像市石丸2丁目5-15

携帯電話 090-1082-4641

FAX 0940-35-2922

E-mail: ganbari-kita@mx22.tiki.ne.jp

公式WEBサイト <http://datemasanobu.net/>



皆様こんにちは。長い冬が過ぎ、春爛漫の季節となりました。12月議会報告書は諸事情により配布できませんでした。申し訳ありません。12月議会の一般質問の中で、「子育てに【じいじ・ばあば】の関りを」と題し、北九州市が取り組んでいる、孫育てのための「じいじ・ばあばに贈る孫育て本～北九州市祖父母手帳～」を本市でも作成し、多世代や地域で子育てしやすい環境づくりを進めてはどうか。と提案しました。部長の回答の中（一部抜粋）で、「孫育ての支援は、地域全体で子どもの育ちを応援するまちづくりにつながるものと考えておりますので、祖父母手帳についても情報収集を行い、配布方法や活用の仕方などを研究した上で、作成について検討してまいりたい。」との事でした。

作成される事になりましたので、出来上がりましたら是非、地域のおばあちゃん、おじいちゃんも含め、よく読んでいただき、良き理解者として孫育てにご参加下さいませ。

◆「だて正信通信」は、WEBサイトにて他の報告も加えて掲載しています。インターネットにて「伊達正信」で検索し、正信通信欄をクリックして下さい。



令和7年3月議会報告

一般質問（2月28日）

項目1 本市の財政運営について

質問 長期国債を満期保有した場合、経常収支比率上昇等もあり、減債基金の積み立てや公共施設等維持更新基金の積み立て計画に影響は出ないのか。満期期間が長い場合原資である150数億円を守ろうとするあまり、必要な財政出動に鈍りが出るのではないか。この事は市民の関心事でもあるので、しっかりとした答弁をお願いしたい。

理事回答 （抜粋）全会計で総額250億円の基金残高を保有している。その内、150億円程度の国債を買い入れ運用を行っている。その差額100億円が流動性の高い定期預金などで保有している。国債の保有期間中に不測の財政需要などがあつた場合の伊達議員のご指摘する懸念につきましては、現状の100億円の流動性の高い資金をもって十分であると認識している。緊急性の高い財政需要があるとして想定される地震や風水害による災害については、今年度に安全安心まちづくり基金30億円の創設をした。災害に必要な事業費については後々国からの財政支援があり、基金から取り崩した額の大半が復元されるものと想定している。また、もう一つの財政需要として、アセットマネジメント事業等の投資的経費の投入がある。例として城山中学校整備事業の例を挙げると、令和7年度までの事業費として約44億円を投じて行った。このうち、国庫補助金と市債を合わせた35億円の特定財源がある。その内、9億円が基金を取り

崩すなど市の一般財源で対応している。財源の確保にあっても計画的に取り組むこととしており、現状の基金保有額で対応できるものと見込んでおります。

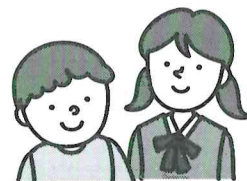
◎私は、質問の中で市の財政の健全性を見るのに二つの見方をしていると申しました。一つは現状を外見から見た見方です。本市は市庁舎の増築や大規模改修を行い、市民サービスの向上を図りました。財政が苦しすぎるとそのようなことはできません。もう一つの見方は、数字による見方です。「将来負担比率」です。簡単に説明しますと、将来の財政を圧迫する可能性があるかどうかの度合いを示すものです。本市のこの数字は毎年度0%以下であり、将来の負担比率は算定されていません。つまり、将来負担を残すような状況にはなっていないという事です。しかしビックリしましたが、担当理事の回答の中で福岡県の27市の内、8市が将来的に財政負担が発生する可能性がある公表されているそうです。

項目2 子どもを対象としたインフルエンザの予防接種について

◎現在本市では、中学3年生を対象にインフルエンザ予防接種費用の助成をしています。市長が、高校受験を控えた3年生へ配慮して始まった補助金です。しかし、接種率が40%と低いのが気になります。

県下で補助をしている自治体が2か所あります。うきは市と岡垣町です。お隣の岡垣町役場へどのような理由で始められたか聞きに行ってみました。当時の町長が、小中学校の卒業式でインフルエンザによる欠席者が多かったことから、発症や重症化の抑制が図れないか検討を指示なさったそうです。

子どもの事を心配なさっての町長の指示に感動しました。



本市では残念ながら予防接種費用の助成は、宗像医師会と協議した結果、供給量に限界があり、重症化リスクの高い高齢者向けのワクチンが不足する懸念があるため中学3年生の助成のみに限定したとのことでした。岡垣町役場さんには接種率等、比較的無理の無いと思われる事項のみお聞きしたつもりでしたが、閉鎖となった学級ごとの欠席者数まで調べて下さり、気の毒な気持ちとなりましたが、心を込めて対処して下さいました事に感謝申し上げます。

項目3 地場産業の活性化について

問 令和7年度のプレミアム付き商品券の計画について伺う。

部長回答 プレミアム率20%で8億円を販売し、9億6千万円の発行を予定し、予算計上している。

問 小規模事業者の現状として、急激な物価高騰によるコストの増加を十分に価格転嫁できていない状況を耳にするが、市及び宗像市商工会の支援体制は。

部長回答 多くの事業者は、コスト増加分を十分に価格に転嫁できていないという状況です。事業規模によっても状況は異なりますが、受注する立場であることが多い中小事業者は取引関係の悪化を懸念し、価格交渉をためらう傾向が見られます。商工会では月に4日、価格転嫁に関する相談窓口を設置し、中小企業診断士による相談対応を行っています。適正価格による取引の重要性について周知徹底を図るとともに、経営相談を通じて事業者の抱える課題に合わせたきめ細やかな支援を行っています。

予算第1特別委員会（3月13日・17日）

3月議会の予算委員会で市の保有する長期債券の売却を巡って議員と執行部との白熱した質疑応答がありました。市では平成17年度から基金を原資に長期債（国債）を購入し、利息を稼いでいます。これまで約56億円もの税外収入を稼ぎ、市の財政に寄与してまいりました。「宗像市債券運用基準」によりますと、購入債権は満期まで原則として保有することとなっています。現時点では、大幅な含み損が生じていますが、満期が来ますと額面で政府が買い取ることになっていますので問題はありません。これからも1年間に7千万円超の利息を毎年稼いでいく見込みです。市では、令和元年度に国債を10数回に渡り、売却しました。（売却益約5億6千4百万円）運用基準の中で、会計管理者が必要と認めた場合は、満期前に売却することができます。これは、売却益を得るばかりでなく、利率の低いものから高い債券に乗り換えるという利点もあります。ところが、令和2年度から3年度にかけて、一部額面を下回る金額で売却したものが3回あることが判明しました。いずれも、1回の売却の中に損する債権と利益の出る債権とをミックスして売却して、トータルでは利益を出しています。3回売却分の合計利益は、約7千8百万円です。顧問弁護士の見解としましては、「宗像市債券運用基準」には抵触していないとのことですが、しかし一部の議員からは、投資元本を上回る価格で売却しなければならない。という一文を盾に執行部批判の発言がなされました。私はこの一文は、狭義的見方をすると誤解を招く恐れがあると申し上げたのちに、当時の関係する職員の方々が、厳しき財政事情の中で、少しでも財政に寄与しようとして、利率の高い債券に乗り換えようとしたものであると確信していましたから、次の事を討論の中で申し上げました。（一部抜粋）「一つのカテゴリの中で個々の債権を一括売却されたことは、次なる目的をしっかりと見極め本市の財政に寄与するんだという、当時の職員の並々ならぬ決意があったことを思い浮かべます。何もしなければ何の指摘も受けません。満期まで持っておけばよい訳です。職員の方がやる気をそがれるような指摘は、慎むべきと自分自身に言い聞かせているところです。」私は以前にも書いたと思いますが、松下幸之助の言われた「やってみなはれ」の言葉が好きです。今回の事は、本市の税外収入を増やし財政に大いに寄与していますので、問題はありませんが、他の施策等で例えミスがあったとしても私（市長等上司）が責任は取るからと「やってみなはれ」が、こだまする市役所であり続けていただきたいと思います。

◆「宗像市債券運用基準」には不備があると思います。まずは、大きな資金を動かすのですから、議会への報告義務を明記するべきだったと思います。目的も書かれてなかったの、後日執行部へ申しましたところ、新しく改定する分にそれも含めて検討するとのことでした。国債の事は、執行部より連絡会等で4億円の利益があったとかというような話は聞いていましたので、そういう時に巨額の資金ですので定期的に資料を提出するよう指摘するとかしなければいけなかったと、反省しています。後からの批判は空しいものです。

※地域公共交通について

- 公共ライドシェアの実証実験を行います。タクシー会社と協力し、一般ドライバーが空いている車両を利用するものです。同じ方向へ向かう複数の人を乗り合いで輸送。鐘崎の岬地区で始めて、その後、拡大していく予定。
- 新規に広域路線バスとして「宮若・宗像線」を運行させます。宮若から朝の団地等を経由し、赤間駅を往復するものです。

※安全・安心なまちづくり

- 浸水対策として田久地区に河川からの逆流を防止するフラップゲートを整備。
- 移動式排水ポンプ設備整備工事を行います。

※市民の就労支援

- 県と協力し、就労サポートセンターを市役所内に設置し、市民の就労を支援します。

※「全天候型子どもの遊び場施設」のオープン（ユリックス芝生広場）

- 子育て世代を支援する施設です。単なる遊び場ではなく様々な世代との交流も実現できそうです。私は、県が県営公園へ設置するインクルーシブ遊具のような物を、この施設にも検討できないか提案しました。

※中学校運動部活動の地域移行

- ただ今進行中ですが、全国でもトップレベルの取組となっています。しかし、さまざまな課題も浮き彫りとなり、保護者等からの心配の意見も寄せられているとのことです。ひとつずつ、丁寧な対応が望まれます。産みの苦しみの先には素晴らしい地域クラブが誕生して欲しいものです。

※住宅・事業所向け太陽光発電・蓄電池設備導入促進

- 補助金があります。太陽光発電だけでも補助金はあるそうです。

※障害者訓練等給付費（国からの定まった費用目です。）

- 農家と障がい者就労支援事業所のマッチングを行う農福連携推進事業の実証事業です。

※予防接種事業費

- 令和7年度から帯状疱疹ワクチンが定期接種となります。65歳以上5歳刻み。6年度から市独自で実施してきた50歳以上の助成事業も引き続き実施されます。

※特別支援教育連携事業費

- 令和8年度から「県立特別支援学校」が福岡教育大学敷地内に開校予定ですが、就学支援相談の窓口である「教育支援委員会」の多忙さに鑑み、さらに相談者が増えることが予測されますので、態勢は整っているか質問しましたところ、強化しているとのことでした。

※「こども誰でも通園制度」が令和8年度から始まります。市は令和7年度、モデル園を募り先行実施します。就労に関係なく、生後6か月から3歳未満対象です。親の育児負担軽減や孤立感の解消などが目的です。試行期間では、子ども一人につき、月10時間を上限としています。

学童保育事業において、夏休みなどの長期休暇中昼食は原則持参であるが、持参できない場合は事業者の実費を支払って弁当の手配を依頼しているという。中には、貧困等の理由により弁当の手配を依頼することもできず、十分な昼食を持参させられない家庭もあると聞く。食育の観点から、十分な栄養価のある食事を取れるように、就学援助制度の対象となる生活困窮世帯については、弁当の手配を依頼する場合、その費用を市で負担できないか。

本市では、生活困窮世帯に対し学童保育料の減免を行っていることから、弁当費用の助成等については現段階では考えていません。

◎出来ないことはわかっていました。そもそも学校給食は、戦後食料難の中で子どもの栄養状態の悪化を受けて、国の政策として、学校給食が始まりました。であるならば、夏休み等長期休暇等にあつては、生活困窮者には国が責任をもって昼食費の支援をするべきとの考えから、国へ問題提起されてはどうかと部長へ申しました。

◆国は、小学生の給食費を来年度から無償化する予定です。しかし、国の交付金ではおそらく今までの宗像市の充実した昼食は提供できないと思います。市長は質の低下にならないよう関係部署へ支持して下さるものと思います。本市は随分と以前から学校給食は、各学校で作る自校式としました。当時の市長が子どもたちにあつたかい昼食を食べてもらいたいとの思いで始まったのではないかと思います。県内では完全自校式は60市町村の内、わずか22自治体のみです。昔、O157の菌が流行しましたが、センター方式ですと全学校の昼食提供が一斉にできなくなります。自校式は費用もかかりますが、作ってくださる方が自分たちの学校への想いもあり、心のこもった料理となっていると思います。食育の観点から感謝して食べるよう子どもたちにお伝え願えれば幸いです。

まさのぶ さんぽみち 正信の散歩路

近年、不登校の児童生徒が多くなっています。異論もあるとは思いますが、いじめや不登校問題を考えるとき、子育ての基本は幼児期からの家庭教育にあるというのが、私の一貫した持論です。昔、私の育った村では家の手伝いをするのは当たり前でした。私の家には五右衛門風呂がありましたが、近くの小川から水を汲んで風呂に入れたり、薪を拾ってくるのが私の役目でした。

春になると田んぼの畔に生えている、のび（ネギみたいなもの）を取ってきてそれが夕飯のみそ汁の具になっていました。夏休みになると（小学高学年）炭の担ぎ出しや、道路工事、杉の苗植え等アルバイトに行っていました。（お金を稼ぐ大変さを知ることができました。）そのように、子どもも含めてみんなで家庭を支えるのが当たり前の時代でした。幼児期から決められた手伝いをさせるのは、家族の一員としての自覚に有効だと思います。戦後まもないころ、山形県に住む中学2年生の「石井敏雄君」の書いた作文を紹介します。（方言は少しなおしてあるそうです。）

「私はまいにち学校にのちゆかず、炭山にゆきました。毎日山にいて、炭がまの点火室に木をわってくべます。それから山のてっぺんから炭がままで木をひっぱってくるのです。六回ぐらいひっぱるとお昼になります。ご飯を食べるとすぐひっぱりはじめます。夏は夕方五時まで山にいます。帰りは炭をせおってきます。家に帰ると六時半ぐらいになっています。支度をほどこいて、ご飯を食べて、わらを打ちはじめます。父さんが、「今日は学校へ行っている」と言っていたので、私は喜んで学校に行きました。」

時代が違いますので、ご批判も多いかとは思いますが、「家庭は家族全員で支える」ことを子どもたちに教えて欲しいと願います。

心豊かに生きるまち、宗像の創造

まさのぶ つうしん

だて正信通信

令和7年9月 vol.47

編集・発行

だて まさのぶ
宗像市議会議員 伊達 正信

〒811-4147

宗像市石丸2丁目5-15

携帯電話 090-1082-4641

FAX 0940-35-2922

E-mail: ganbari-kita@mx22.tiki.ne.jp



皆様こんにちは。宗像を襲った8月豪雨につきましては、被災された方も多く、大きな災害となりました。心よりお見舞い申し上げます。

9月議会、一般質問におきましては、多くの議員の方が今回の集中豪雨についてご質問されました。伊豆市長はその方々の質問に対して、全議員に市長みずからお答えなさいました。その中で一般質問3日目の水曜日、回答される市長の声が幾分震えて、涙ぐんでいるような表情に見えました。被害箇所の視察に行かれた時の事を思い出されたのかなと私も自席で神妙な気持ちとなりました。一日も早い日常が戻りますよう祈念申し上げます。



令和7年9月議会報告

一般質問（9月1日）

項目1 高齢者の支援施策について

問 高齢者が家で気分が悪くなり、救急車等を呼んで欲しい時、市から支給された緊急通報装置を押すと委託事業者に繋がるシステムがあるが、本市では「65歳以上の一人暮らし又は高齢者のみの世帯で緊急に対応する必要性が高い疾病を有する等、日常生活を営む上で常時注意が必要な状態にある人」等、設置できる条件が厳しい。条件の緩和はできないか。また、新たに外出時でも対応できる携帯型緊急通報装置を採用している自治体もある。本市でも検討できないか。

部長回答 令和9年度からの次期計画の見直しに向けて、本市の実態や先進地の状況等を踏まえ、最適な高齢者福祉サービスについて調査研究してまいります。

◎この事について、豊前市の近くにある吉富町の役場に行っていました。

吉富町の条件は、「65歳以上の一人暮らしの方・疾患等により、日常生活で注意を要する高齢者のみの世帯」と緩やかな条件です。脳血管疾患（脳梗塞等）で治療を受けている患者が全国で188万人にも及びます。また、令和4年調査では一年間に約10万7千人の方がお亡くなりになっておられます。脳梗塞等は突然襲ってきますので、宗像市の条件では、緊急通報装置は事前にお借りできません。宗像市の高齢者は、約2万9千人（令和5年現在）、吉富町は約2千100人（令和2年現在）と十数倍もの差があるにもかかわらず、設置台数は、宗像市43台、吉富町87台です。令和9年見直しとなりますと、その間救える命があるのではと、どうしても思わずにはいられません。決められた枠の中から一歩踏み出す考え方が必要ではないでしょうか。



東白川村緊急通報装置（HPより）

問 実証実験が開始された公共ライドシェアについて、高齢者の利用状況と今後の課題は。

部長回答 現在、岬地区、自由ヶ丘地区、河東地区の3地区で実証運行中の「むなりんく」の利用は8月末現在で175人となっており、70歳以上の高齢者利用は約6割と多くの利用を頂いている。今後の課題は、認知度向上や配車アプリを含め分かりやすい利用方法の周知等を強化していく。

◎この宗像版公共ライドシェアは、アプリ（電話も可）で予約すれば家の前までタクシーが来てくれるという免許証返納者等にとってはありがたい施策です。私も施策が成功するよう応援の質問をしました。私が提案したのは、各自治会の老人クラブでどのようにしてくれたら良いのにな～とかを話し合ってもらうのが良いと申しました。そこで、買い物に絞って提案しました。老人クラブで話し合って、ひきこもりがちな一人暮らしの方や介助がないと買い物ができない方を対象に高齢者でも元気な方がそうゆう方を公民館まで連れて行き、そして同じ目的地（サンリブ等）にライドシェアのタクシーで行って買い物し、買い物が終わったら自宅までライドシェアのタクシーで送ってもらい、健常者が自宅玄関まで買い物袋を持って行ってあげる。という提案です。例えば月の第1月曜日と第4月曜日の10時公民館集合と決めておけば、外出が少なめな高齢者も心待ちにされるかもしれません。

また、アプリが苦手でも得意な方がまとめて手配して下さることも可能です。むなりんくは乗車が3人以内となっていますが、このようなグループに限っては4人にできないかと質問しましたところ、部長さんがそのようにしますと即決して下さいました。

◎公共ライドシェアの質問に当たり、買い物支援等のボランティア活動をされているひかりヶ丘の「高齢者・障害者支援 ひかりヶ丘生活支援隊」の盛忠昭さんと大塚朝一さんにお話を伺いました。この会は、買い物支援だけでなく、植木の簡単な枝切りや蛍光灯の交換、さらには困りごと相談等様々な支援で高齢者を支えておられました。これこそ、最高のボランティアではないでしょうか。頭の下がる思いでした。

項目2 子育て世帯の支援施策について

問 子どものいる家庭で離婚が発生した場合、親が分担すべき養育費の支払い義務が履行されていない場合もあると聞く。本市は現状を把握しているか。

部長回答 養育費の受給状況は、児童扶養手当受給資格者857人のうち、240人、概ね3割の人が養育費を受け取っていることを確認しています。

◎部長から、市は公正証書の作成や養育費保障契約の結についての支援を行っているとの回答もありました。今まで日本では、子どもの親権に対し、どちらかの単独親権のみが認められていましたが、来年度から「単独親権」と「共同親権」のどちらかを選択できるようになります。共同親権は離婚後も父母が協力して子育てができることや別居している親も子どもに関わりやすくなることなどから養育費の支払いが促進されやすくなることが考えられます。一方、デメリットとして、虐待やDVの被害を受けるリスクが生じることなどもあります。私は、この制度の危うさを弁護士等と相談の上、市民に広く知らせて欲しいとお願いしました。福岡県では、養育費に関する無料法律相談を開設しているようです。

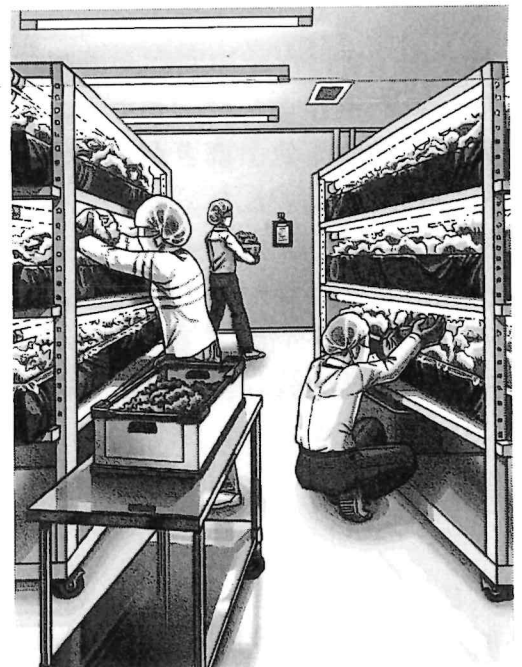
項目2 近未来型農業を目指して

質問 農業施策については、地球温暖化による気候変動と若い新規就農者の参入が喫緊の課題であると考えます。気候変動に左右されないのが室内型の垂直農法であり、若い人が参入しやすいし、事業継承にも役立つ。三協立山㈱のアグリ事業の中で設置スペース18坪の面積で栽培設備5台という小規模の実証実験がある。採算に乗るとのことですが、本市でも実証実験できないか。

部長回答 宗像には多くの農地がある。環境・防災・景観等多面的な機能を有している。土地利用型農業を守っていくのが大前提だと考えている。ただ、議員提案の室内生産型農業は、今後広がりを見せて行くことは十分考えられる。実証実験となると建設コスト、設備投資を以下に削減することが重要となる。一定の投資が可能な企業との連携が必要不可欠である。三協立山の従業員とも協議させていただいた。やはりスタート時の建設コストがクリアになることで広がりを見せていくことになるのではないかとっておられたので、可能性については調査研究していく。

◎私は来年春に開校予定の「特別支援学校」の事もあり、ユニバーサル農場としても実証実験できないかと、他の部長に質問しましたが、その分野では良い回答は得られませんでした。この設備は、ひとりの指導者に5人の障がい者をひとつのグループとして行うものです。市は民間の障がい者施設との協力の元、特別支援学校の子どもたちと農福連携を始めることにしました。とても良いことだと思います。それはそれとして、推進して欲しいと思います。

私は特別支援学校を卒業してからの事を考えています。福祉法人ではなく、農業法人ですと、最低賃金が最低でもいただけます。そうなりますと、自立の道も見えてくるのではないかと思います。以前一般質問で静岡県浜松市にあるユニバーサル農場「京丸園」の事を取り上げましたが、そこでは、毎年一人の障がい児を受け入れていて、常時20数名の障がいを持った方々が働いているそうです。他の議員が一般質問の中で特別支援学校の事で、伊豆市長の考えを問いましたところ、卒業してからの事を考えていると言われ、共感致しました。



三協立山㈱のアグリ事業より

9月議会 予算・決算第1特別委員会

※決算委員会は、毎年9月に行われます。前年（令和6年度）の予算執行が適切であったかを審査する議会です。毎回、白熱した執行部と議員との質疑応答があります。私は執行された費用の流れも大事ではありますが、主に事業内容が次にどう繋がって行くのかにこだわって質問します。

※全国的な流れとして、財政は扶助費（生活困窮者・子育て世代・障がい者等への費用）の伸びが毎年高くなってきており財政を圧迫し、財政が硬直化してきています。宗像市も流れとしては同様ではありますが、これまでの職員の皆様の頑張りにより、将来負担比率（将来の財政の圧迫度）は良好で全国でも上位に位置しており、県内でもトップクラスをキープしています。

私は、財政の安定している今こそ大きな一手を打てるチャンスではないでしょうかと職員さんに問いました。（内心ですが、室内での水耕栽培の実証実験とか、市街化調整区域を解放して、企業誘致を進めるとか。）職員さんには大きな夢を語っていただきたいと思い、本市では、高田鉄工所との取り組みで、ウニの陸上養殖の実証実験を行っています。新しい産業としてぜひ頑張ってもらいたいところです。また以前紹介しましたが、大島では田志さんたちが県の支援も受けながら、ウニに大島産の甘夏ミカンの皮を餌として与える「甘夏ウニ」の養殖を始められ順調に実証実験は進んでいるようです。「道の駅むなかた」で販売していると聞き、早速買いに行きましたが、どこにもありません。レジ係の方に尋ねますと、人気が高く売れきれたそうです。がっかりしていますと、すぐにレジ係の方が調べましようと言われ、次の入荷は10月とのことでした。お客を大切にされておられるな〜と、嬉しくなりました。代わりに鐘崎産の塩ウニを買いましたが、これもなかなかおいしかったですね。

※大島に高級リゾート宿泊施設である「宗像大島リゾート」が誕生しました。立派なグランピング施設も備えています。大島にはバギー場とかバーベキュー施設とかもあります。観光による大きな渦が大島に沸き立ってきたと感じます。宗像市の観光の目玉になればとの思いで支援の質問を致しました。

※宅配業者の再配達問題があり、市では「脱炭素社会」の一環として置配ボックスを1,500枚市民に配布しました。ヤマト運輸などは置配ボックスを有効に使用できるのですが、郵便局の場合は事前の手続きがいるようです。私は郵便局の事情を広報誌などで市民に知らせて欲しいと要望しました。

※ヤングケアラー（家族の介護などを日常的に行っている子ども）の子ども数が増加しています。私は社会問題だと思います。まずは発見が大事です。市ではヤングケアラーコーディネーターを配置し、関係機関と連携して対象児童を支援しています。

9月議会補正予算

※8月集中豪雨問題を受け、市では「排水ポンプ車」をもう1台購入します。しかし、全国的な豪雨被害続出のため、の納入時期が不確定のようです。その他、「防災カメラの増設」も行います。

コミュニティや自治会ごとに避難指示を出す訓練はとても有効だと考える。市長、伊達議員からも紹介があったように、過去の災害でも、河東地区の山田や畑を対象とした地区を限定して避難指示を発出しております。加えて、近年の大雨では特定の河川氾濫も想定されます。河川付近の自治会を対象に避難指示を発出する訓練も考えていきたいと思っております。

◎市は浸水被害を防ぐための止水版購入に補助金（半額）を〇成する議案を12月議会の補正に組みました。私の質問に答えて安価なものでも対象とするとのことです。田熊地区にポンプ場の整備をします。令和10年の出水期から稼働できるようになるとのことです。その間は、排水ポンプ車をもう1台購入して対処します。（令和8年に間に合うそうです）

ため池の豪雨前の事前放流はどうなっているか。

ため池の管理者の皆様に対し、大雨あるいは局地的豪雨などが予想される場合、あらかじめため池の水位を低減させる、いわゆる事前放流を実施していただきますように、水利権者の皆様をお願いしているところでございます。

◎令和7年11月20日にグランメッセ熊本で開催された「先進建設・防災・減災技術フェアin熊本2025」に一人で勉強に行ってまいりました。素晴らしい防災の展示等がなされ、にぎわっていました。1時間程度の講演も受講しました。田んぼダムや、ため池の事前放流（集中豪雨が予想される3日前）の有効性を講演の先生は訴えておられました。

まさのぶ さんぽみち
正信の散歩路

10月15日の西日本新聞「くらし・紅皿」の欄に、私が参加している「朝起き会」のメンバーである泉ヶ丘にお住いのM・Tさんの投稿が掲載されていまして、ご紹介いたします。

赤、緑、黄色……。今日も意識して作り上げた。今年の4月から、中学生になった長女のお弁当をほぼ毎朝作るようになった。赤、緑、黄の3色を入れると華やかでおいしそうなお弁当になると本で読み、女の子は好きだろうな～と思いながら詰めている。赤はミニトマトやゆでたニンジン、緑はブロッコリーやピーマンやキュウリ、黄色はゆで卵やたくあん、それに前の日の夕食のおかずやミートボールなどを入れれば完成だ。キャラクターのかわいい風呂敷できゅっと包む。

夕方、無言でお弁当箱を出してくるお年頃の長女。おいしかったかな～と気になりつつも、空のお弁当箱に感謝。先日はお弁当に手紙を添えてみた。「いつも頑張っているね！笑顔でね。あなたが大好き！母より」

帰ってきた長女は「別人が書いたかと思った」とびっくりしていたが、うれしそうな様子で「手紙取っておくね」と一言。反抗期真っただ中の長女に伝わったかな。これからも3色お弁当作り頑張るね。今日も無事に帰ってきますように。背中に手を振り見えなくなるまで見送った。

※愛の表現も人それぞれですが、M・T家の日常の家庭の様子が目に浮かんできますね。



心豊かに生きるまち、宗像の創造

まさのぶ つうしん

だて正信通信

令和8年1月 vol.48

編集・発行

だて まさのぶ
宗像市議会議員 伊達 正信

〒811-4147

宗像市石丸2丁目5-15

携帯電話 090-1082-4641

FAX 0940-35-2922

E-mail: ganbari-kita@mx22.tiki.ne.jp



皆様こんにちは。昨年11月8日に赤間小学校の子どもたちと、日ごろお世話になっている地域の方々が一緒に給食を頂くというイベントがありました。子ども大学の一環として行われたのですが、私も見守り隊として呼んでいただきました。4年生のクラスで昼食となりましたが、3人の子どもたちと机を並べての昼食は実に楽しいものとなりました。昼食を食べ終わり男の子が飲み終えた牛乳パックのたたみ方を親切に教えてくれました。（リサイクル）感謝！！

4月下旬に市長選挙があります。おととしの市議選では衆議院選挙と重なり、59.14%と高い投票率でした。前回の市長選は、35.68%と前々回より1.66%低くなりました。市や市議に、ご自分の考えを訴えるためにも是非投票に行ってください。



私は、伊豆市政8年間の実績を支持します。



令和7年12月議会報告

一般質問（12月3日）

項目1 災害に強い宗像を目指して

問 平成30年7月の集中豪雨時に市は加東地区に緊急避難指示を発出し、職員が一軒ずつ家庭に伺い避難誘導した。その後、市は「雨に強いまちづくりビジョン」を策定し、排水ポンプ車や災害用トイレカーの購入等、災害対応を加速的に進めてきた。しかし、近年の異常気象は想定を超えてきている。市民が安心して暮らせるよう、市長の防災に対する決意を聞きたい。

市長 市回答 忘れもしません。私が市長になって間もない7月の事でした。溜池決壊（河東地区山田・畑）の恐れがあるということで、宗像史上初の避難指示発令でした。その時の緊張感、責任の重さ、今でも身の震える思いで、よく覚えています。（決壊は回避されました。）近年の気候変動により、宗像市でも水害被害のリスクが高まり、自然災害の予測はますます困難になってきています。市民の命と安全を守るために災害を少しでも減らせるよう、今できる備えを着実に進めていくことが重要であると考えています。8月の大雨を受けて、12月議会補正では、移動式排水ポンプ車（2台目）や防災カメラの増設、止水板設置の補助制度も盛り込んでいます。さらに、雨に強いまちづくりビジョンに基づく整備計画につきましては前倒しを決断し、洪水リスクの早期軽減を目指し、加えて、国や県に対しても必要な支援を粘り強く要望してまいりたいと思っております。災害への備えに、ここまでやれば十分という終わりは見えませんが、市民の命と暮らしを守るため、あらゆる対策を積み重ねていきたいと思っております。

問

本市は、三つの駅を中心としたまちづくりを進める一環として、JR九州と包括連携協定を結んだ。協定の中で災害に強いまちづくりとある。構想推進のためには、赤間駅周辺の水害対策は急務と考える。中長期的な構想を含め、市の施策を伺う。

部長 市回答

赤間駅周辺の水害対策は取り組むべき重要な課題であると認識しており、令和6年3月に策定した「雨に強いまちづくりビジョン」において重点対策区域と位置づけて、フラップゲートや調整池の整備など浸水対策を計画しております。フラップゲートについては、今年度より田久地区などで工事予定であり、調整池は今後、基本設計、実施設計、用地取得を行った後に工事となることから、整備までに長期間を要しますが、早期整備に向け鋭意努力するとともに、既に導入しております移動式排水ポンプ車や防災ライブカメラ、道路冠水警報システムの運用などにより、被害の軽減を図っていきたいと考えております。

◎私は、赤間駅南口前の居酒屋等、店舗が浸水し、大変な災害になったことから、出来ることから始めて欲しいとの考えで、側溝蓋のグレーチング蓋への取り換えや街渠（水路）の浚渫、街渠の河口付近のボトルネックの解消等をお願いしました。その中で、街渠の浚渫についてはすでに栄町から赤間地区コミュニティ運営協議会へ要望が上がっていて、市環境課へ改善提案書を8月に提出済みとのことを神谷事務局長さんから事前に伺っていました。浚渫しますとの回答が市からあったそうです。その他に田んぼダムを応用した、遊水地についても提案しました。調整池建設となると期間も多額のお金もかかりますので、鍵橋から野添橋付近の田んぼ（もちろん所有

者様の合意が必要です）に2m程度の壁だけを作り山田川が満水状態になったら、街渠から流し込む方法を提案しました。笑われるような提案かもしれませんが、何とかしたいと思います。

それから赤間駅から赤間コミセンにかけて、広大な田畑が広がっています。そこに田んぼダムを作る提案もしました。（無理なようです）佐賀県や熊本県は田んぼダムに力を入れています。人吉市では球磨川氾濫後、市民あげて防災に取り組んでいます。その中で「田んぼの学校」というのを設立し、田んぼからの流水を調節する「せき板」は障がい者支援施設で制作してもらっているとのことでした。絵は小学生が描いたものです。佐賀県は実に2,700ヘクタールを田んぼダムにしています。佐賀県の北山ダムの貯水量の12%にもなるそうです。



せき板

問

自助・共助の観点から自主防災組織は、組単位やそれに近い災害時用の特別な班を組織したほうが、現実的だと考える。市が災害時に発令する避難指示は地域により実情が違う。緊急時の対処方法として、コミュニティや自治会、あるいは組単位で避難指示を発出する、そういった避難訓練も今後は必要ではないか。

一般質問項目2 学校給食について

- (1) 本市の学校給食について、市の基本的な考え方はどのようなものか。
- (2) センター方式と自校方式のメリットとデメリットをそれぞれどのように認識しているか。
- (3) 近年の物価高により給食費の値上げを実施した自治体もあるが、本市の対応は。
- (4) 国は来年度から小学校（義務教育学校・特別支援学校等を含む）の給食費無償化を実施しようとしているが、無償化になった場合でも、本市の質の高い給食は担保できるのか。市の見解は。
- (5) オーガニック給食の導入や推進に関する市の方針は。

◎今回の一般質問は、項目1の災害に強い宗像を目指してが時間がかかりすぎ項目2は2回目の質問がほとんどできない状態となりました。反省と同時に教育委員会の皆様に変な申し訳なく思いました。

(3)の質問に対し部長より「宗像市学校給食審議会」の答申について、説明がありました。令和7年度の給食費は小学校で1食当たり29円値上げし317円、中学校で34円値上げし391円に設定との答申がなされたとのことです。令和8年度についても値上げの答申になることが見込まれているとのことです。

政府は令和8年度より小学校の給食の無償化を実現する模様ですが、国からの補助金では、宗像市の質の高い学校給食は維持できそうもありません。部長の答弁の中で、国から発せられる情報を注視しながら、本市の特徴である安全で安心して食べられるおいしい給食を継続的に提供できるよう、財源を含めてしっかりと検討してまいりたいと考えています。と、力強い言葉が返ってきました。

学校給食でのアレルギー対応について質問しましたところ、他の自治体では、それぞれまちまちな対応で牛乳以外は一切アレルギー対応をしていない所もあるとのことです。本市は主要12品目、30種類のアレルゲンに対応した給食を提供しているとのことです。対象児童生徒は現在332人だそうです。県下トップクラスのアレルギー対応がなされているとのことです。



学校給食で東郷小学校を視察された伊豆市長

予算第1特別委員会

◆12月議会最終日に国費として物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金8億2千5百万円の補正予算の議案が上程されました。主なものは下記の通り。

■全市民に5千円給付 ■高校3年生までの子どもに一人2万円 ■プレミアム商品券・むなpay発行 ■地域クラブ活動支援策として、指導者謝金等にかかる保護者負担軽減 ■保育・福祉・介護施設の光熱費負担軽減による経営支援
※子どもは一人当たり2万5千円となります。

総務常任委員会

※物価高等を考慮して市職員の給与の引き上げの議案が上程されました。
(人事院勧告によるものです。) 全員賛成で可決。

※宗像市特別職報酬等審議会より下記内容の事が答申されました。

■市長等3役の給料の額を平成17年度の給料減額前の額に復元すること、並びに市長等3役及び市議会議員の期末手当は、従来通り、指定職俸給表の適用職員と同一の支給割合を適用し、令和7年人事院勧告に伴い、引き上げること。

◎私は、市議の期末手当分につきまして、宗像市では若い議員も多くなっている、生活基盤を支える意味でも値上げは妥当といった内容の事を申し上げ賛成としましたが、市長等三役は、給料も含め据え置く考えを示されていたので、気持ちはわかるが、どこかの時点で元に戻されるよう申しました。
この議案は賛成少数で否決されましたが、本会議では賛成多数で可決されました。

◎以前障がいのある市民の方から市へ、シニアカーの東郷駅自転車等駐車場への駐車を認めて欲しいとの要望があっていましたが、今回、最終本会議の建設常任委員会報告で検討する旨の報告がありました。私は、討論の中で弱者にやさしい宗像の方針に合致していると申し上げ賛成としました。

◆8月豪雨では、道路の損壊やがけ崩れ等、大きな災害が発生しました。下記写真は、南郷地区大穂の崖崩れの被害状況を視察されている伊豆市長等の様子です。

